昭和五十九年五月一日　　兵庫県石出郡石町内町五九　　勝林寺

勝林寺だより

善導独明仏正意

お念仏のおみのりをお釈迦さまから私たちにまで大切に伝え伝えてくださつた七人の高僧（「七高僧」さま）の第五番目が善導大師さまです。

善導さまはことに『観無量寿経』というお経をてがかりにしてお念仏をあじわい『観無量寿経疏』という註釈書を書いて私たちに正しいお念仏を伝えてくださいました。

善導さまがお示しくださつたことを『正信偈』のおことばの上で伺うのは次回にして、今回は『観無量寿経』を概説してみましょう。

まず、「お経」というのはスートラ（花輪の糸、織機の縦糸）といつて、「これを依り所にして生きなさい」「これを日々のくらしの縦糸にしてくらしなさいよ」と、人々に話しかけられたことばです。ですから私たちもそのおことばを心して聞かせてもらいたいと思います。

『観無量寿経』は韋提希夫人という一人の女性へのご説法です。

韋提希は王舎城の王ビンバシャラのおきさきでした。この夫婦は長い間子どもに恵まれませんでした。おきさきはあせつて占師にうらなつてもらつたのです。

「ヒマラヤの山奥でいま修行中の修行者が、その修行を仕とげて死ぬるとき、あなたの子として生れかわつてくるでしょう。それまでお待ちなさい」

韋提希はしかしそれまで待つてはおれませんでした。ひそかに兵士をつかわしてその修行者を殺害してしまいました。修行者はうらみをのんでころされたのです。

韋提希は後悔しました。しかしやがて胎児の動きを感じるようになると、その子に負目があるだけに異様なほどの愛情をおさえることができませんでした。けれどもこのことが王に知れたこともあつたのでしょう出産のおり、胎児を高い所からしかも剣の林の上へ生み落したのです。ところがこの男の子は、手の指先をちよつと切り落したゞけで元気に生れ元気に育やてゆきました。

韋提希はこの子アジヤセをねこ可愛がりに可愛がつて育てたのです。母親のいわば狂気じみた愛情のなかでこの子はやがて立派な青年王子になりました。

ところがそのころダイバダツタ（実はお釈迦さまのイトコ）という野心家がこの青年王子に近づき王子をそゝのかしました。

ダイバダツタから出生の秘密を知らされたアジヤセ王子は、いままで父母に強い愛情と信頼をもつていただけに、たちまち猛り狂いまず父王を七重の牢に入れます。夫と子との板ばさみになつて苦しんだ韋提希はひそかに夫の牢に食べものを運ぶのを見つけられ夫とは別の牢に入れられてしまうのです。

可愛い一人の子どもからそむかれ、依り添つて生きてきた夫ともさかれてしまいました。

たくさんいた侍女ももうかしづいてはくれない。地位も名誉も自信もなにもかも失つてしまつて、今はたゞ一人の悲しい女です。

どうしたらいいのでしようか。何をたよりに生きたらいゝのでしよう。

韋提希はいまはもうお釈迦さまにおすがりするしかありません。

そんな韋提希ですのに、お釈迦さまがわざわざ大事なお説教を途中で休んでこの牢にお見舞に来られたときも、そのお釈迦さまに向つてさえ、うらみごとや愚痴しか言えない女です。

「何をたよりに生きたらいゝのでしよう。私でも救われるお浄土をお示しください。その阿弥陀さまのお浄土へ生れる道を教えてください」と願う韋提希に対してお説きになつたのが「定善十三観」と「散善九品」の道でした。

「定善十三観」というのは、思いを一点に集中しその緊張した心の中で浄土のすがた仏様のすがたを観想することによりその仏その浄土と一つになろうとする高度な修行のことを言います。

「散善九品」というのは私たちの日ぐらしのなかで主に道徳的な修練を積んで救われようとする道です。従つてこれにはその人の能力やその他の条件によつて九段階があるのです。最低段階（下品下生とよばれますが）このランクの人は、十悪五逆ありとあらゆる悪を行つた人。当然悪道に堕ちてゆかねばならぬはずの人です。でもその人の臨終のとき善い友人が仏様を心に念じるようにすすめますが死の苦からそれも出来ません。せめて南無阿弥陀仏と仏様の名を称えなさいと言われ十声念仏して救われるというものです。

韋提希はそのお釈迦さまの口から阿弥陀如来さまのおみのりを聞きお姿を拝することができ、そのなかでゆるぎない信心のよろこびに入ることができました。

お釈迦さまはですから、他の修行（定善・散善）もさることながら「南無阿弥陀仏」の念仏を通して如来さまの願力に出会わさせていたゞけよと韋提希におすゝめになつているのです。

牢から出てお帰えりになろうとするお釈迦さまは、そのあゆみをとめて、さらに念を押すようにこう言いのこされるのです。

「いいね、このことば、この語だけは忘れないでよくたもつのだよ。そのことばとは無量寿如来さまの御名　南無阿弥陀仏。」

葬儀

四月十四日

正法寺　山田芳枝様

五月のこよみ

一日　西宮市西福寺親切講法話・平田専福寺永代経
二日　西宮市西福寺親切講法話・平田専福寺永代経
三日　上夜久野専福寺法事・数森弘道氏宅法事
五日　湯口勇雄氏宅法事・成田義次氏宅忌明
六日　田中保夫氏宅法事・山田やえ様法事
兼井彰子氏宅祥月
十日　玉日会定例・十六夜会定例
十一日　加古川市常泉寺永代経法話
十二日　同
十三日　宮島幸彦氏宅百か日
十六日　兵庫教区教化推進企画室会議
二十一日　宗祖降誕会（本山）
二十四日　中央講師研修会（本山）
二十五日　西宮市西福寺法話
二十六日　「みのりを聞く会」
二十七日　玉井克弥氏宅法事
三十一日　出石組坊守会（普立寺）

大谷本廟と納骨

大谷本廟（京都市東山五条）は宗祖親鸞さまの御墓所です。

親鸞さまが九十歳で亡くなつて十年目、末の娘であつた覚信尼様を中心に弟子たちが協議してこゝにお墓を建て堂を立てゝ親鸞さまのお木像を安置しました。これが本廟の始りでありまた「本願寺」の発祥です。

浄土真宗の御門徒は、親鸞さまをおしたいする思いから、亡くなつた人の遺骨を年々村々の代表者などに託して大谷本廟に納めました。

勝林寺は本廟の納骨堂の十階に納骨仏壇を持つております。そして今も毎年「念仏奉仕団」のときにその一年間の納骨法要を営んでいます。

今年は

七月二日（月）・三日（火）

私のお念仏（二）

口小谷　宮嶋千秋

私の家には村の門徒会の御仏様がおまつりしてございます。

その昔、宮嶋喜代志氏のおじい様にあたる故宮嶋喜左衛門氏のご寄贈によるものと聞いております。

村では、春秋彼岸とお盆と報恩講と定期的なお勤めが年四回ございます。

どんなに忙がしくても全員が万障繰り合わせてお参りしてくださいます。昔からのしきたりとはいえ、皆さんがいちばん心に念じておられることがよくわかります。

なかでも秋の報恩講は、一年のしめくゝりという意味や一年の感謝のつどいという心持ちもあつて皆さんの楽しみの一つでもあり、私も喜びのなかの一員であるわけです。

その日は皆さんが早朝より集まつて来られてご馳走作りに一生懸命です。

当日は、ご院家様と坊守様にもご苦労様になります。朝早くから各戸各戸の報恩講が勤められます。その後この私の家を会場に村の総報恩講（総講とよんでいます）をおつとめ致します。

全員で「お正信偈さま」をあげたあとご院家様のお説教をしみじみ聞かせていただきます。その後皆さんひざを交えてすべて手造りの報恩講のおとき料理に昔なつかしい味を楽しませていたゞき今日の喜びとしあわせをを語り合い一日中笑いと喜びの声がたえません。

私はこうした喜びの陰にもある大きな力の働いていることを思わずにはおれません。

こんなにいゝものを残してくれたこの村の先祖の方々。それに、それぞれにいろいろと思痴を言いながらも、その日が来ると一生懸命せつせとこしらえをしてくれる私の家族の者たち。なにかこのようなものを通して大きな不思議な阿弥陀様のおはたらきが私を包んでくださつているのではないかと心に思えてくるのです。

それからまた私は、毎日毎日、家族の健康としあわせを願つて黙つてせつせと働いておられる主婦の姿にも阿弥陀様のお光を思われます。

お仏壇に向つて手を合わすとき、このごろ私はそんなことを思うのです。　南無阿弥陀仏。

わが目には　み影さだかに　うつらねど
弥陀の光は　われをつゝます

（仏壮会員の皆さん。当り前のくらしのなかにも、不思議な大きな力が働いていてくださることに気づかさせられることが沢山あります。一つ一つひろつてみましょう）

一年生入学おめでとう

岸下　守くん（保谷）
斎藤　真菜さん（小田）

先月号の「一年生入学おめでとう」の名簿に漏れておりました。お詫びをし、あらためて「おめでとう」を申します。

それからどうする

昔の中国にこんな伝説があります。

仙人一厳しい修行を積んで一定の境地に達し、「不老長寿」長い寿命が得られた人のことですが。その仙人が危い木の上でめい想修行をしておりました。

その木の下を通りかゝつたお坊さんが足をとめてたずねました。

「あなたはいつたい、そんな所で何をなさつているのですか」

仙人は胸を張つて答えました。

「いまやつているこの修行が完成したら、私はあと二百年生きられるのじゃ」

するとお坊さんは益々不思議そうに問いかけます。

「あと二百年も生きて、それからどうするのですか」

この伝説は七高僧さまのうち第三番目の曇鸞大師が、お念仏の道にお入りになつたきつかけを語る有名な話でした。

「それからどうするのですか」

一日でも長生したい。一日でも若くありたい。一日でも健康にすごしたい。一日でも楽しくくらしたい。

そう願うのはいつたい何のためでしょう。何のために長生きしたいのですか。何のために健康でありたいのですか。

たゞ長生きして、それからどうするのですか。たゞ健康を保つて、それからどうするのですか。

お念仏は如来さまの永遠のいのちに生きかえらせていたゞく道です。

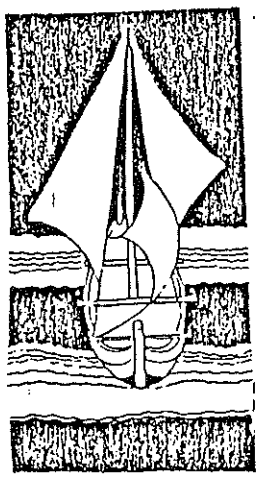
せつかく人間に生れてきたからには、如来さまのいのちに生きかえらなければなんにもなりません。

ただ生きて、ただ死んで、それだけです。

如来さまのいのちを恵まれたしあわせを喜ぶ一日一日を大切に生きたいと思います。

永遠のいのち南無阿弥陀仏のなかに摂め取られて生きる今日のこのいのちに、かしづく思いで健康にも気をつけたいと思うのです。

（四月、十月ラレホン法話より）



「仏壮」は今年十周年です。もう一度初心にかえつて「真宗」を学びなおそうと総会で申し合わせました。「仏婦」では新らしく来てくれたお嫁さんに「真宗」をどう伝えたらよいのか悩んでいます。

むずかしいことはなるべく避けて、身近かな形のうえから「真宗」を伺つてみようとこの冊子を編んでみました。

どうぞご利用ください。無料でお分けします。

「浄土真宗のてびき」

目次

「浄土真宗の教え」
「宗教」とはなんでしょうか。
「仏教」とはどんな教えですか。
「浄土真宗」（親鸞さまの仰がれた法）
本願念仏ということ（私たちのすくい）
「合掌と礼拝」（お仏壇とお墓）
どんなお仏壇がいゝか
ご本尊はどのようにお迎えするか
これだけは是非そろえたいお仏壇の仏具とお飾り。
浄土真宗のお仏壇のお飾り。
お仏壇には何をどうお供えするか。
ご本尊をお迎えしたときの入仏式。
お仏壇のお結縁とお参りの作法。
お墓の大きさや型に定めはあるか。
お墓の迷信。
まどわされてはいけないお墓の迷信。
お墓を建てたときの法要は。
「仏事の作法」（年回法要のつとめ方）
年回の日のくり方と寺への連絡。
併修する場合。
年回法要のすゝめ方と式次第。
月忌法要と祥月命日。
「タブー」（気をつけたいこと）
真宗にはなぜタブーが多い。
日の吉凶・占い・方位・姓名判断などに左右されない。
以下略

十六ページの小冊子です。